

北播磨ビジョン委員会 加東市国際交流協会訪問 議事録

日 時：令和3年9月10日（金） 18：30～19：00

場 所：イオン社 2階 NPO 法人加東市国際交流協会

参加者：加東市国際交流協会3名・生活分科会メンバー3名・ビジョン担当1名

記録者：

加東市国際交流協会の方に現在作成中の「北播磨おもいやりボード」を見ていただき、指差しボードを作成するにあたってのアドバイスを伺った。以下、頂いたアドバイスである。

○どこで使用する指差しボードなのか、明確にする

どこかに常設しておくものなのか、あるいは持ち運べるようなものなのか、まずはどこで使用するものなのかを決めてボード作成するとよい。日常生活すべてをカバーする指差しボードを作ろうと思うと大変であるので、テーマ（場面）を最小限に絞るとよいかも。例えば、災害にあった時用、交通事故にあった時用、病院関係（救急車を呼ぶ時）用、警察を呼ぶ時用、ごみ出し用など。1つのテーマだけであっても外国人にとっては助かると思う。

または、各テーマの最も必要な言葉を字が小さくても名刺1枚両面にまとめると常時携帯でき使いやすい。（簡潔に名刺サイズ・8ページ冊子にすると、4テーマを常時携帯できると考えられる）

○言語を考える

現状、日本語・英語・中国語の言語で作成されているが、北播磨地域の外国人はベトナム人が最も多いので、ベトナム語があるとよいかも。（中国語はなくてもよいかも。）

しかしながら最も大事なものは、やはりやさしい日本語であるので、やさしい日本語を重視して作成するとよい。例えば、漢字にふりがなをつけるだけでも、やさしい日本語に一步近づく。

○イラストをつける

文字を見て理解できなくても、イラストや記号、世界共通でわかるマークなどの、目で見て分かるもので理解できることもあるので、そういったものを盛り込んでみてはどうか。

○サイズを考える

「思いやりボード」という名前だが、どこで使用するかにもよるが、A4サイズにこだわる必要はない。例えば名刺サイズの両面といった、財布に入るサイズだったり、持ち運べるようなコンパクトな冊子でも、いざという時に使えて良いかも。

○やさしい日本語を学ぶ

兵庫県国際交流協会が作成した、外国人住民が安全・安心に日本で生活するために実際の生活場面で活かせる日本語を学ぶ教科書である。ボード作成の参考になれば。

・兵庫県国際交流協会「くらしの日本語」

<https://www.hyogo-ip.or.jp/torikumi/tabunkakyose/kurashi/index.html>

以上